

放射線関連量の課題に関する検討委員会（臨時委員会）第2回委員会 議事録

日時：2024年8月29日（木）14：00～16：30

場所：(一財)電子科学研究所 中会議室 <https://www.esi.or.jp/access/>

大阪市中央区北久宝寺町 2-3-6 非破壊検査ビル 6階+オンライン

参加者：委員長 小田啓二（電子科学研究所）
副委員長 佐々木道也（電力中央研究所）
幹事 山田崇裕（近畿大学）
委員 黒澤忠弘（産業技術総合研究所）
委員 高木俊治（三菱総合研究所）
委員 吉澤道夫（放射線計測協会）
委員 廣田誠子（広島大学）
委員 岩井 敏（元原安進）
委員 小口靖弘（千代田テクノル）
委員 高橋史明（日本原子力研究開発機構）

配布資料：

資料 0-1 議事次第

資料 0-2 前回議事録（案）

資料 1-1 JHPS ホームページ掲載文「はじめに」（案）

資料 1-2 Activity と Radioactivity

資料 2 防護量・実用量の変遷と課題

資料 3-1 ICRU Rep.95 の新実用量の課題

資料 3-2 新線量体系の課題整理、国内外の動向把握

議事概要：

議事に先立ち、新委員の廣田誠子氏（若手研より）の紹介があった。

1. 物理量の定義と課題（ESI-NEWS 転載について）（小田委員長・山田幹事）

ESI-NEWS 記事の JHPS の HP への掲載に関して、前書きの文章（資料 1 の「はじめに」）案が小田委員長より示された。資料 1-2 で山田幹事より指摘された内容については正誤表で対応することとした。また、山田幹事より本件の取りまとめ状況の報告があった。各委員による最終確認を待って委員長による前書きとともに HP 掲載の手配をとることとした。

2. 防護量・実用量の変遷と課題（吉澤委員）

吉澤委員より、資料 2 に基づき、現時点までの進捗状況、特に現行法令に残っている問題

点に関する調査内容が報告された。

ICRP1977年勧告の法令取入れに関する議論がまとめられた「技術指針検討会報告書」(昭和62年)の資料によれば、ある深さでの線量当量として「1cm-深部線量当量」という表現が使われており、その後の放射線審議会基本部会で「1cm線量当量」に変更されたのではないと思われる。1990年勧告を受けた検討の際に実用量の名称について意見が出されたが、既に定着したとしてそのまま維持された。

なお、問題点のひとつである「妊娠女性の線量限度」については、時間的制約から検討途中で終わり、次回以降に回すこととした。

3. 新線量体系の課題整理&国内外の動向 (岩井・佐々木)

岩井委員より、資料 3-1 に基づき ICRP95 新実用量の課題について説明があり、子供については、新実用量が実効線量より小さくなることが指摘された。本件については ICRU 委員として携わった JAEA 遠藤章氏に高橋委員を通じて確認してもらうこととした。

佐々木委員より、資料 3-2 に基づき新線量体系の課題整理&国内外の動向をとりまとめるに当たり、その進め方案について報告された。指摘された課題等の項目ごとに担当者を決めて対応することとした。

4. その他

今回は12月の研究発表会(合同大会)前に行う。日程は別途調整することとした。

以上